

# 平成29年度 おおさき福祉の心コンクール「福祉作文の部」

福祉作文の部  
小学生の部  
最優秀賞



## 「お先にどうぞ」

東大崎小学校 六年 五十嵐 暖

「お先にどうぞ」

ある日、母とドラッグストアで買い物をしてレジに並んでいると、母はそう言っていて私達の後ろに並んでいる人に順番をゆずりました。後ろを見ると、私よりずっと小さな女の子が赤ちゃん用のオムツを抱えて立っていて、その横には小さな赤ちゃんを抱っこしたお母さんがバッグからお財布を出そうと大変そうにしています。そのお母さんは、「ありがとうございます。」と母

に言っていてレジに進み、レジを済ませると、もう一度母に「ありがとうございます。」と言っていて店を出ていきました。いつも母と買い物をしてレジに並ぶ時、一人でも並んでいる人の少ないレジを探す母なので、不思議に思い母の顔を見ると、母は「あなたが赤ちゃんの時もちよとした買い物でもとても大変だったの。列に並んでいるうちにあきて泣いてしまったり、歩けるようになるまでと今度は逃げ出してしまったり。だから一分一秒でも早く自分の番にならないかなあと思ってた。」と笑っていました。私はその時、五年生の時の花山合宿で、山で深呼吸をした時のような、とても清々しい気持ちになりました。

そして、それと同時に気付かされた事があります。それは、体の不自由な人やお年よりに手を差し伸べるのだけが福祉ではないという事です。

私達の暮らす社会には様々な人がいます。母がレジの順番をゆずってあげたような小さな子供を育てている人、健康そうに見えても目には見えない病気を持った人、慣れない国で暮らす外国人など、まだ私が知らない普通に生活する事に困っている人達はたくさんいると思います。私達は身近にいるかもしれない、そういう人達に目を向け、心を寄り添わせて生活することがより良い社会へつながっていくと思います。

父は、冬の間、ゴミの集積所へ運ぶのが大変な隣の一人暮らしのおばあさんのゴミを、家のゴミを一緒に運んであげます。お祭りで迷子を見つけた姉は、おまわりさんのところへ連れて行ってあげました。家で美容院をやっている祖母は、足が不自由でお店に出来ないお客さんの家まで行って髪を切ってあげます。そんな家族を見習い、今、私にできる福祉に気付き、出来ることを進んでやれる人になりたいです。

そして世の中の人みんなが身近にいるかもしれない困っている人に優しい気持ちで接することができるようになれば、もつともつと住みやすい社会になると思います。私はそんな社会になればいいなあと思います。

福祉作文の部  
中学生の部  
最優秀賞



## 「しんちゃんが教えてくれたこと」

古川黎明中学校 一年 川村 望 結

「真也くん」彼は私の小学校の同級生。筋肉が固まってしまっている病気で、二年生の時から特別支援学級ひまわり組に入っていた。みんなから「しんちゃん」と呼ばれ、私もよく友達とひまわり組に遊びに行っていた。

行動していた。

私がそのしんちゃんルールを一番考えたのが、修学旅行二日目の、自主研修の時だ。私はしんちゃんと同じ班になり、車いす行動のしんちゃんには、先生がつくことになっていた。私達はコースを決める段階から、先生としんちゃんにできるだけ負担がかからないコースを考えようと努力した。自主研修当日、私達は負担の少ないコースとして考えた、他の班より見学場所が少なく、移動時間を多くとったスケジュールで動いた。行動途中、しんちゃんルールを考えて職員で車いすを押したり、バスの乗降を手伝ったりした。身の回りのことをしてもらうと、しんちゃんはいつも笑顔で「ありがとう。」と言ってくれた。無事に集合場所に着いた時は、バスの乗降や階段などの心配がとれ、安堵した。この修学旅行を通して私は、思いやる気持ちと、それに対する感謝の気持ちの大切さに、しんちゃんと同じ班になって気づくことができた。

人思いやり、思いやりに感謝する。今はとても大切でありたいように思えるが、私には勇気が足りず、なかなか行動に移せなかったり、心からの感謝ができなかつたりすることが多かった。しかし、しんちゃんの何事も自分でできるように努力し、手伝ってもらった時はきちんと感謝を伝える姿を二日、近くで見ると私は変わることもできた。障害者だけでなく、健康な人にも、一人ではできないことがたくさんある。その時に思いやりを持って手を差し伸べられる、また、思いやりに感謝し、それを伝えられることが大切なのではないだろうか、と考えることができた。

みなさんは、障害のある人と接する時、どう接しているだろうか。私は、障害のある人と接する、と二口に言っても、障害の種類や症状によって接し方は、あくまでもできない所まで、全てを手伝ってやってあげては、障害のある人本人にも、自分にも良くない所だ。できる所は自分でやり、できなかった所はカバーしてあげる。そのようない思いやりこそが、その人に対してのルールを作り上げるきっかけになると考える。こう考えられるようになったのも、しんちゃんのおかげだ。このように、障害のある人から生きていく上で大切なことを教えてもらったことは少なくないと思う。だからこそ、障害のある人と関わり、をできるだけ持つてほしい。そうすることで、自分にはなかった新しい考えがもたらされるかもしれない。

思いやり、感謝の気持ちを教えてくれたしんちゃん。本当にありがとう。